

各協議に係るポイント

報告（1）第51回関東甲信越静社会教育研究大会新潟大会報告【新潟県】

本大会の参加者の状況、決算の状況、アンケート結果等を報告いたします。御意見・御感想等がございましたらお寄せください。

議事（1）第52回関東甲信越静社会教育研究大会東京大会について【東京都】

令和3年度開催の東京大会の概要です。東京大会への御要望・御質問等をお寄せください。

また、既にメールでの御案内もありましたが、開催要項の必要部数の問い合わせがございましたので、御対応ください。

議事（2）第53回関東甲信越静社会教育研究大会山梨大会について【山梨県】

令和4年度開催の山梨大会の概要です。同大会への御要望・御質問等をお寄せください。

議事（3）関東甲信越静社会教育研究大会の開催都県及びローテーション（案）について【事務局】

本ローテーションに基づき、令和5年度大会は栃木県、令和6年度大会は茨城県になります。開催に向けた準備をお願いします。事務局も同様となります。

山梨大会以降の大会で事例発表のローテーション表を使用される場合は、東京大会の事例発表都県を踏まえ使用してください。

議事（4）令和3年度関東甲信越静社会教育委員連絡協議会正副会長について【事務局】

規約に基づく、正副会長の改選となります。

令和2年度関東甲信越静社会教育委員連絡協議会第2回理事会

検討結果シート

(提出先)

新潟県社会教育委員連絡協議会 あて

都県・市名 新潟市社会教育委員会議

このことについての検討結果は、以下のとおりです。

議案 番号	議 事	意見 又は 賛否	意見 又は 承認できない理由
報告 (1)	欄 外 に 記 載	<input checked="" type="checkbox"/> 無 ・ 存	
議事 (1)		承認 <input checked="" type="checkbox"/> する ・ しない	
議事 (2)		承認 <input checked="" type="checkbox"/> する ・ しない	
議事 (3)		承認 <input checked="" type="checkbox"/> する ・ しない	
議事 (4)		承認 <input checked="" type="checkbox"/> する ・ しない	
その他 (お気づきの点等があれば、御記入ください)			[連絡・その他(1)] 千葉県からの意見である大会開催方式の開催については、ご提案のように何らかの検討が必要とは感じるが、具体案は持ち合わせていない。ちょうど次大会の東京都におかれては、「開催規模の縮小等に関わらず、オンライン配信を実施することを検討中」(理事会資料14頁)とあるので、その成果と課題を受けて検討に入るといふことではいかがだろうか。

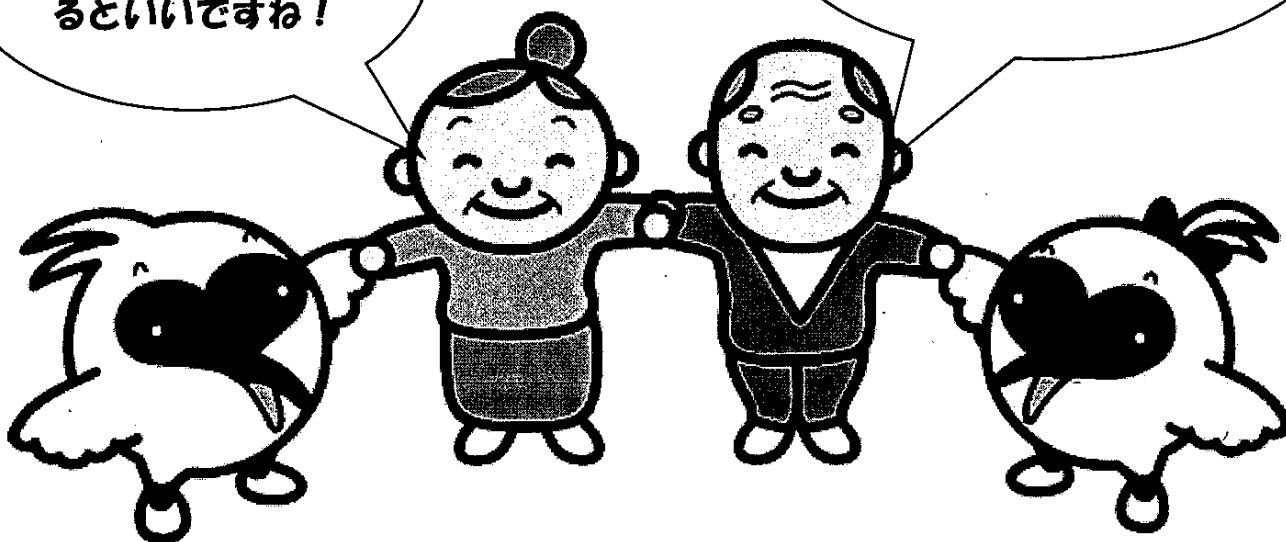
令和2年度

関東甲信越静社会教育委員連絡協議会

第2回理事会

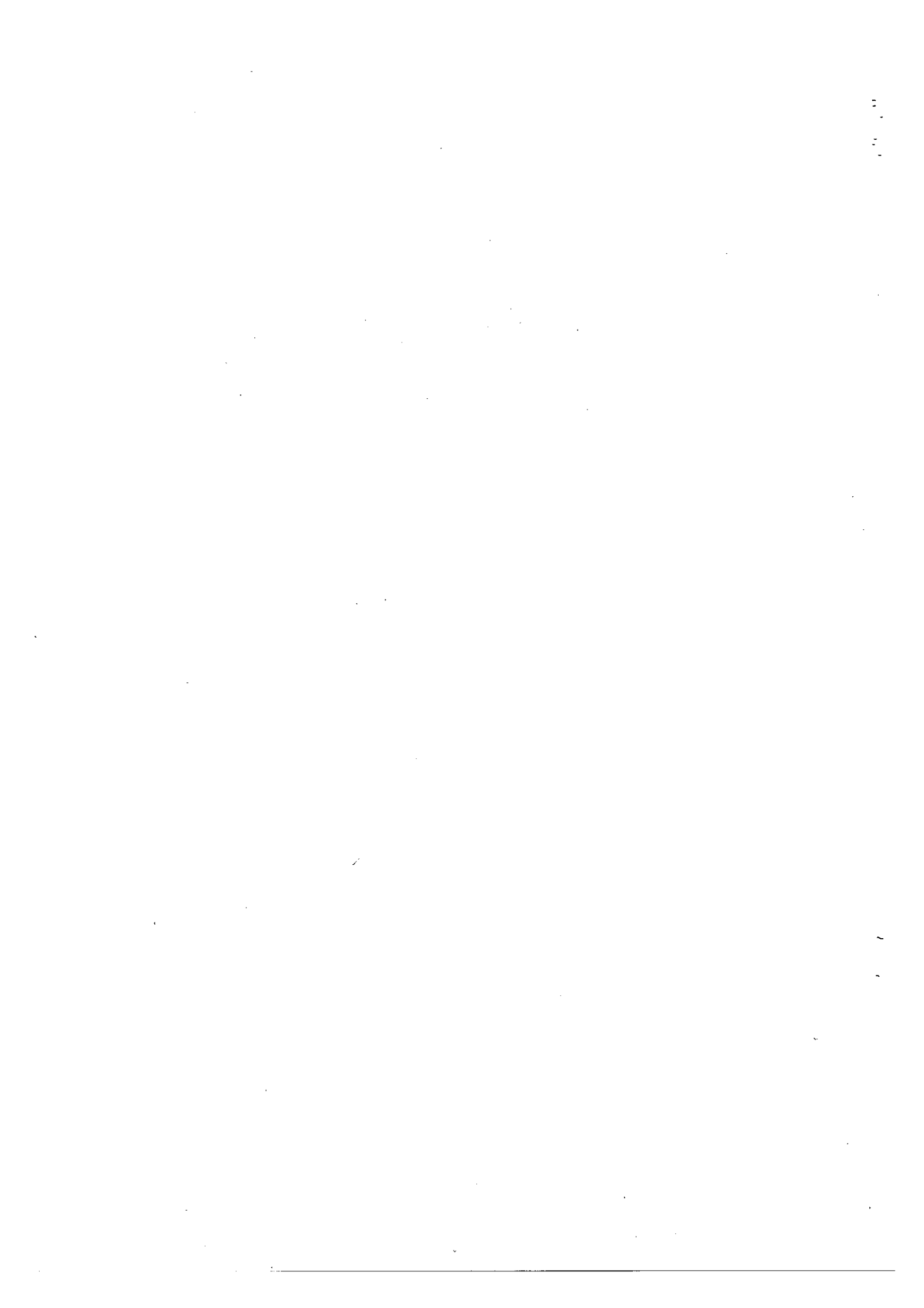
今年は府中で会える
といいですね！

令和3年度が穏やかな
年となりますように。



令和3年2月開催

新型コロナウイルス感染症の拡大の懸念から、本会議は書面開催とします。



関東甲信越静社会教育委員連絡協議会理事会に寄せて

昨年は、関東甲信越静社会教育研究大会新潟大会にご協力をいただき、誠にありがとうございました。COVID-19 の感染拡大の中での開催であったため、参加者を新潟県内在住の社会教育関係者のみに縮小、全国の皆様へは、書面（大会冊子）及びインターネット動画配信による開催でしたが、皆様のご支援により本大会を成功裏に導くことができました。私たち新潟県関係者にとりまして大きな自信につながったものと確信しております。まずは、これまで本大会を支えてくださいました皆様に御礼申し上げます。

さて、本理事会は3月開催予定で準備を進めてまいりましたが、COVID-19 の感染拡大の終息が見えない状況から、対面による開催を断念することとなりました。皆様に直接大会の御礼を述べたいと考えておりましたが、大変残念に思います。

日増しに暖かくなり、早春の息吹を感じる季節となってまいりましたが、平時の賑わいを取り戻すには時間がかかりそうです。それでも私たちは、東京都で行われる関東甲信越静社会教育東京大会に向けて着実な歩みを進めなくてはなりません。

ぜひ、皆様には健やかに過ごしいただくとともに、本理事会資料をご検討いただき、新年度の円滑なスタートにご協力いただけますと幸いです。

令和3年2月

関東甲信越静社会教育委員連絡協議会会長 山田智之

協議等内容

報告

- (1) 第51回関東甲信越静社会教育研究大会(第62回全国社会教育研究大会)新潟大会報告【新潟県】 p. 6

議事

- (1) 第52回関東甲信越静社会教育研究大会東京大会について【東京都】 . . . p. 13
- (2) 第53回関東甲信越静社会教育研究大会山梨大会について【山梨県】 . . . p. 20
- (3) 関東甲信越静社会教育研究大会の開催都県及び発表ローテーションについて
【事務局】 . . . p. 21
- (4) 令和3年度関東甲信越静社会教育委員連絡協議会正副会長について
【事務局】 . . . p. 25

連絡・その他

- (1) 千葉県より p. 26
- (2) 令和3年度当初スケジュールについて p. 27

関東甲信越静社会教育委員連絡協議会 規約

(名称)

第1条 本会は、関東甲信越静社会教育委員連絡協議会と称し、事務局を関東甲信越静社会教育研究大会の開催都県に置く。

(目的)

第2条 本会は、社会教育委員相互の連携を図り、社会教育の振興に資することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- 1 関東甲信越静社会教育研究大会の開催に関する事。
- 2 その他本会の目的達成に必要な事項に関する事。

(組織)

第4条 本会は、関東甲信越静地区の11都県および東京都市町村の社会教育委員連絡協議会等、ならびに政令指定都市の社会教育委員の会議等をもって構成する。

(役員)

第5条 本会には役員を置き、役員の任期は1年とする。

- 1 会長(1名)は、大会開催都県の社会教育委員連絡協議会等会長をもってこれに充て、本会を代表し、会務を統括する。
- 2 副会長(2名)は、前期開催都県と次期開催都県の社会教育委員連絡協議会等会長をもってこれに充て、会長を補佐し、会長に事故あるときはその任務を代行する。
- 3 理事は、各都県・東京都市町村の社会教育委員連絡協議会等および政令指定都市の社会教育委員の会議等の会長等、ならびにそれらの事務局長等をもって構成する。

(会議)

第6条 本会の会議は理事会と称し、年1回以上開催する。

- 1 理事会は、本会の運営および事業について協議し、決定する。
- 2 理事会は会長が招集し、出席者の過半数によって決定する。
- 3 理事会は各理事の代理出席を認めるものとし、その場合はその旨を理事会に報告する。

(附則)

この規約は、平成3年2月28日から施行する。

この規約は、平成8年10月19日から施行する。

この規約は、平成15年3月12日から施行する。

この規約は、平成16年3月12日から施行する。

この規約は、平成27年3月17日から施行する。

令和2年度関東甲信越静社会教育委員連絡協議会 役員名簿 (敬称略)

※令和3年2月現在

役 職	氏 名	団 体 名	備 考
会 長	山田 智之	新潟県社会教育委員連絡協議会	
副会長	野澤 優	埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会	R2就任
	宮野 良一	東京都市町村社会教育委員連絡協議会	
理 事	儘田 茂樹	茨城県社会教育委員連絡協議会	
	斎藤 陽子	栃木県社会教育委員協議会	
	志村 隆雄	群馬県社会教育委員協議会	
	二宮 義文	千葉県社会教育委員連絡協議会	R2就任
	笹井 宏益	東京都生涯学習審議会委員連絡協議会	
	鈴木 眞理	神奈川県社会教育委員連絡協議会	
	小池 玲子	長野県社会教育委員連絡協議会	
	塩島 明美	山梨県社会教育委員連絡協議会	
	中蔦 るり子	静岡県社会教育委員連絡協議会	R2就任
	若原 幸範	さいたま市社会教育委員会議	
	三野宮 純一	千葉市社会教育委員会議	
	牧野 篤	横浜市社会教育委員会議	
	平川 景子	川崎市社会教育委員会議	R2就任
	古矢 鉄矢	相模原市社会教育委員会議	
	渋江 かさね	静岡市社会教育委員会議	
伊藤 豪	浜松市社会教育委員会		
雲尾 周	新潟市社会教育委員会議		

令和2年度関東甲信越静社会教育委員連絡協議会事務局一覧表

(令和2年2月末日現在)

上段：会長等
中段：事務局長
下段：担当者

NO	団体名	住所(上) / 電子メールアドレス(下)	電話(上) / FAX(下)	会長等・事務局
1	(一社)全国社会教育委員連合	〒101-0065 千代田区西神田3-1-6 日本弘道会ビル7階 mita@shokvoren.or.jp	03-6380-8540 03-6380-8541	鈴木 眞理 馬場 祐次朗 三田 真純
2	茨城県社会教育委員連絡協議会	〒310-0011 水戸市三の丸1-5-38 茨城県三の丸庁舎3階 水戸生涯学習センター内 ibasharen@brown.plala.or.jp	029-225-6991 029-303-5550	儘田 茂樹 大月 光司 檜山 久長
3	栃木県社会教育委員協議会	〒320-8501 宇都宮市橋田1-1-20 栃木県教育委員会 生涯学習課内 shinsei-svougaizakusyu@pref.tochigi.lg.jp	028-623-3404 028-623-3406	斎藤 陽子 阿久津 守男 和久 真
4	群馬県社会教育委員連絡協議会	〒371-8570 前橋市大手町1-1-1 群馬県教育委員会 生涯学習課内 chiku-t@pref.gunma.lg.jp	027-226-4666 027-224-8780	志村 隆雄 内田 善規 知久 鉄平
5	埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会	〒350-0122 川島町下八ツ林870-1 川島町教育委員会 生涯学習課 svougai@town.kawajima.lg.jp	049-299-1711 049-297-8410	野澤 優 - 神田 雅貴
6	千葉県社会教育委員連絡協議会	〒260-8662 千葉市中央区市場町1-1 千葉県教育庁教育振興部 生涯学習課内 skren_chiba@pref.chiba.lg.jp	043-223-4072 043-222-3565	二宮 義文 大森けい子 末吉 文武
7	東京都生涯学習審議会委員連絡協議会	〒163-8001 新宿区西新宿2-8-1 都庁第二本庁舎16階 東京都教育庁地域教育支援部 生涯学習課内 Yoko.Masuda@member.metro.tokyo.jp	03-5320-6853 03-5388-1734	笹井 宏益 倉富 貴久 増田 容子
8	東京都市町村社会教育委員連絡協議会	〒198-8701 青梅市東青梅1-1-1-1 青梅市教育委員会 教育部 社会教育課 生涯学習推進係 div7050@city.ome.lg.jp	0428-22-1111 0428-22-9835	宮野 良一 和田 宏 土屋 久之
9	神奈川県社会教育委員連絡協議会	〒231-8509 横浜市中区日本大通3-3 神奈川県教育局 生涯学習課内 svakyou@pref.kanagawa.lg.jp	045-210-8347 045-210-8939	鈴木 眞理 菟原 典子 永野 文
10	新潟県社会教育委員連絡協議会 (本年度事務局担当県)	〒950-8570 新潟市中央区新光町4-1 新潟県教育庁 生涯学習推進課内 hasegawa.atsushi3@pref.niigata.lg.jp (nat500060@pref.niigata.lg.jp)	025-280-5616 025-284-9396	山田 智之 小林 智 長谷川 淳
11	山梨県社会教育委員連絡協議会	〒400-8504 甲府市丸の内1-6-1 山梨県教育庁 生涯学習課内 tatsuzawa-kivu@pref.yamanashi.lg.jp	055-223-1770 055-223-1775	塩島 明美 山岸 ゆり 竜澤 規之
12	長野県社会教育委員連絡協議会	〒380-8570 長野市南長野下6-9-2-2 長野県教育委員会事務局 文化財・生涯学習課内 bunsho@pref.nagano.lg.jp	026-235-7437 026-235-7493	小池 玲子 小林 司 後藤 卓己
13	静岡県社会教育委員連絡協議会	〒420-0853 静岡市葵区追手町9-1-8 静岡中央ビル6階 shizu.shakvoren@po3.across.or.jp	054-252-0620 054-252-0620	中蔭 るり子 - 水野 きみ代
14	さいたま市社会教育委員会議	〒330-9588 さいたま市浦和区常盤6-4-4 さいたま市教育委員会 生涯学習部 生涯学習振興課内 shogai-gakushu-shinko@city.saitama.lg.jp	048-829-1704 048-829-1989	若原 幸範 - 曾根 啓佑
15	千葉市社会教育委員会議	〒260-8730 千葉市中央区間屋町1-35 千葉ポートサイドタワー11階 千葉市教育委員会 生涯学習振興課内 shogaigakushu.EDL@city.chiba.lg.jp	043-245-5954 043-245-5992	三野宮 純一 中島 千恵 麻生 秀仁
16	横浜市社会教育委員会議	〒231-0017 横浜市中区港町1-1 横浜市教育委員会 生涯学習文化財課内 ky-gakusyu@city.yokohama.jp	045-671-3282 045-224-5863	牧野 篤 渡邊 孝之 松澤 到
17	川崎市社会教育委員会議	〒210-0004 川崎市川崎区宮本町6 川崎市教育委員会事務局 生涯学習推進課内 88svogai@city.kawasaki.jp	044-200-3303 044-200-3950	平川 景子 箱島 弘一 萩原 周子
18	相模原市社会教育委員会議	〒252-5277 相模原市中央区中央2-1-1-15 相模原市教育委員会 生涯学習課内 shogaku@city.sagamihara.lg.jp	042-769-8286 042-754-7990	古矢 鉄矢 太田 修二 加藤 未来
19	静岡市社会教育委員会議	〒424-8701 静岡市清水区旭町6-8 清水庁舎8階 静岡市教育委員会 教育総務課内 kyoikusomu@city.shizuoka.lg.jp	054-354-2524 054-354-2472	浜江 かさね 西島 弘道 平岡 拓馬
20	浜松市社会教育委員会	〒430-8652 浜松市中区元城町103-2 浜松市役所 市民部 創造都市・文化振興課 shogaigk@city.hamamatsu.shizuoka.jp	053-457-2413 050-3730-2887	伊藤 豪 平田 隆 遠部 佳代子
21	新潟市社会教育委員会議	〒951-8055 新潟市中央区礎町通3ノ町2086 クロスバルにいがた 新潟市教育委員会 生涯学習センター内 crosspal@city.niigata.lg.jp	025-224-2088 025-223-4572	雲尾 周 枝並 素子 加藤 優子

報告（1）

第 62 回全国社会教育研究大会新潟大会アンケート結果

1 回収数 参加総数 239 名

回答数 110 名（社会教育員 66 人、市町村行政職員 36 人、その他 6 人、未記入 2 人）

2 評価結果

	適当 満足	おおよそ適当 やや満足	普通 やや不満	不適當 不満	無回答
事例発表	66.4%	29.1%	4.5%	0%	0%
シンポジウム	46.4%	33.6%	16.4%	3.6%	0%
講演会	40.0%	26.4%	11.8%	11.8%	10.0%
全体満足度	37.3%	49.1%	8.2%	0.9%	4.5%

3 事例発表

「感想やあなたご自身ならこのように取り組みたいというものがありませんでしたらお聞かせください。」

- ・発表は各立場で各地位での社会教育に関する話題に富んだ（対応課題があり）各発表だったので大変参考になった。
- ・多少なりともフロアとのやり取り（質疑）の時間がほしかった。
- ・NPO 活動で子育て支援を行って、素晴らしいことだと思いました。私には NPO 設立してまではむりだなと思いましたが、子育て支援は行いたいです。
- ・高校生の探求の時間について、自分たちもどのような支援ができるか検討しているので参考にしたい。
- ・どの発表も地域社会の実情を的確にとらえ、活動に結びつけている点が勉強になった。
- ・誰一人取り残さないという視点は、今後とも大切なんだろうと思いました。
- ・高齢者が高齢者を支えるという視点が参考になりました。
- ・どの事例もよく頑張っているなという感想である。自分の現在の仕事（コミュニティセンター）に少しでも生かしたいと思う。
- ・高校生が主役の地域での学びを参考にして、学生にミッションを出したい。また、年代別の組織を作る必要があると思うのが、上の世代に理解が得られず苦勞している。
- ・高齢者を高齢者が支える。各世代を無理に結ばず、各世代にグループで任せる。細かな項目アンケートは参考になった。
- ・それぞれの地域に合った事例発表だったと思う。参考になる活動も多く地域で取り組みたいと思う。
- ・素晴らしい実践と実証した事例、素晴らしい成果を全国の人の前で発表ができず残念に思いました。
- ・社会教育委員は何をするの？本当にそう思います。
- ・どの方も、自身を持ち主体的に活動されていると感じた。

- ・地域によって発表内容に特徴が出ていた良かった。
- ・都市部とそれ以外の地域との協力や連携が進むことによって、もっとできることがあるのではと5つの発表を聞いて思った。
- ・「個々の日常の本務から社会教育委員の活動へとつなげる」というのはわかるが、本務の事例発表が多い。社会教育委員としての関りが見えて来ない。
- ・新潟市の高校生を対象にした事業は、学校の協力が得られれば、ぜひ実施したいです。今回の発表は行政の人とNPOの人と社会教委員以外の活動が多く、その旨司会が進行した方がよかったと思います。でも内容はGOOD!
- ・社会教育委員の活性化に向けた取り組みに様々な視点があることを委員の皆さまと共有していきたいと思いました。
- ・「後継人材育成を兼ねた活動」、「多世代向けの活動」という視点が自分にはなかった(勝手にカテゴライズしていた)ので、ぜひ検討してみたいと思う。
- ・高校生のコミュニティ・コーディネーター育成講座すばらしいです。
- ・村上の取り組みに圧巻でした。
- ・5市の特徴ある取り組みがよく分かり参考となった。
- ・村上市の総合型クラブの事例は、特に参考になりました。
- ・長岡市まちなかキャンパスの取り組みと村上市のNPO法人希楽々の事例に興味を持ちました。新しい切り口としての社会教育のすばらしい事例だと思います。
- ・村上の希楽々の発表が具体的でよかった。また、企業も巻き込んだ活動が参考になった。
- ・コロナ禍で大変な中、共生は難しいと思いますが、できることから進めていくことが大切ということを学ばせていただき良かったです。
- ・燕市さんみたいに自主研修の大切さ、自分自身も日々勉強していきながら取り組んでいくことは素晴らしいと思います。
- ・スクリーンと各席との距離が遠く、よく見えなかった。ステージとの距離をもう少し工夫する。
- ・社会教育委員の概念的なことが少しわかった気がします。
- ・学びも年功序列ではなくなってきた。常に若い感性を取り入れ、学び続けることが人とのつながり、地域への還元など人生にとっては最も大切であることを伝えられるとともに、自分の生き方もそうでありたい。
- ・地域の宝を活かした、少年教育への取り組み。「新しいということは、1日きものを研ぐことである。」
- ・支える側を増やすために地域を知り、サポートを行い活動する。土台を作ることが大切だと改めて感じた。
- ・長岡市の事例は大変参考になった。考える点で参考となることが随所にあったし、人に伝えたいと思う内容だった。

4 シンポジウム

「シンポジウムの感想がありましたら御記入ください。」

- ・社会教育委員の方々により活躍いただく為にクリアすべき具体的な課題が見えました。
- ・後半、社会教育委員としての正直なところが聞けたことが良かった。

- ・シンポジウム形式をとったということは、話を聞いて自分で考えろということだと思ふ。地域、現状にそくした取り組みが行われるべき。
- ・自分たちの「町」を「県」を「国」を盛り上げていかなければいけませんね。
- ・興味のある話が聞けた。もう少し時間を取って、話を深く掘り下げて良かったなと感じました。
- ・ふるさとへの思いがグローバルの考えに発展していくという指摘を大切にしていきたいと思いました。
- ・できれば、各先生の説明の際にパワーポイントなどの資料を使っていただきたかったです。言葉だけより理解できると思うので。
- ・午前の事例発表とつなげて語っていただけると、より具体的なイメージもできて良かったと思う。
- ・考え方や知識として整理ができた。
- ・各々の立場の素直なご意見に共感と好感が持てました。
- ・やはりその道を究めている人の話は訴える力がある。
- ・人の関わりの希薄化や人材育成など問題が多いが、まずは「つなぎ」から実践したい。
- ・話が本質的なものに触れていて、大変面白かった。シンポジス相互意見交換も若干だがなされてシンポジウムらしい時間であった。鈴木さんの話をもう少し聞きたかった。
- ・理解あつての実践！ということを再認識。
- ・パネラーの皆さまのお話が分かりやすく良かった。
- ・興味のあるテーマでした。新しい社会教育について学ぶ機会になったと思います。羽賀先生のお話をもっとお聞きしたかった。
- ・新しい社会教育の目的の中に、人と人との関わりが薄くなって、ふれあい、みんなで楽しむ、みんなで誰かを楽しませる（つなぐ、はぐくみ、響きあう）の具体化、評価観点の明確化をしていく。いままでの評価事項の分別化で、先が見いだせるのでは。
- ・専門的内容で分かりづらかった。司会など分かりやすい言葉でまとめる人がいると良かった。
- ・社会教育の基本的役割を再認識した。
- ・新しい生活様式、対面やそれ以外をうまく活用して自分に何ができるか、自分の役割、人を巻き込んだりしながら取り組む。(イメージ出来ない社会教育委員?! 原則はっきりしていない。幅広いもの。)
- ・意見交換のあつた後半については、それぞれの立ち位置が違うこともあつて、少し話がまとまらなかつたような印象を受けました。
- ・最初はアカデミックな話だと思つて聞いていましたが、次第に面白い(興味深い)内容になったと思ひます。
- ・もっと私自身が学習して、社会教育委員として頑張つていきたいと強く思ひました。
- ・テーマを具体的に社教委にアドバイスできるものにしてほしかつた。
- ・地域に合つた課題の取り組みの必要性を感じた。
- ・社会教育委員の役割は何か、委員の活動か社会活動なのか、考える機会となつた。
- ・社会教育委員の役割を考えるととても良い内容でした。
- ・目標を達成するには、予算が必要であつて額の増減によつて活動内容が異なる。
- ・社会教育委員とは何か。いつも迷つていたので少し理解できました。
- ・社会教育の参画に向け、入り口をどれだけ広げられるかが重要だとわかりました。
- ・資料を見直そうと思つても会場が暗く見えなかつた。

- ・3人のシンポジストの考え方の違いが興味深かった。それぞれの意見と活動や実績の中に共感する事柄があった。

5 記念講演

「記念講演の感想がありましたら御記入ください。」

- ・わかりやすく、穏やかな話し方で良い話を聞かせていただきました。
- ・確かにコロナのことは理解できますが、本人にお会いできず、再度コロナの寂しさを感じました。
- ・やっぱり生で話を聞きたかった。
- ・コロナ対応上今回のような形態になりましたが、実況の場面があり良かったです。
- ・星野さん話が上手で引き込まれました。
- ・とても分かりやすく話をしていただいた。
- ・「いくつになっても学ぶという意欲は大切」とのお話はよかった。
- ・講師の人間性や長岡への思いに飾らぬお人柄に、とても好感が持てました。
- ・星野さんはやっぱり越後人（長岡人）だなあ。もちろんいい意味で。同郷人としてうれしく思う。
- ・人生を豊かに過ごしていくには、興味を持って行動したり、小さな幸せに気づくことが大切ですね。
- ・大会に合った話の内容で良かった。
- ・静かな説得力、感銘を受けました。ZOOM初体験でした。
- ・講演を聞いただけでは分からなかったことが対談を聞くうちに星野さんのお話や言わんとすることが理解できてよかった。知識豊富な方だと思い、お話を聞いて良かった。
- ・星野知子さんの選考は受け止められた。大成功だった。
- ・生の声が聞きたかった。
- ・とても優しい語りで素敵でした。「当たり前」の大切さを感じました。
- ・会場全体が広く、少し寒かったです。休憩が適度にあり良かった。
- ・いくつになっても学ぶ、勉強ではなく、学ぶこと、今しかできないことを今やる。
- ・ほっこりしました。
- ・ZOOMを使うなどの工夫に感心した。
- ・日常のあたり前の生活で幸せを感じる星野知子さん、すばらしい方ですね。コロナ禍で幸せを感じる人間になれるよう、私も頑張りたいと思いました。
- ・ZOOMという方式で鎌倉とのやり取りができるのかと驚いた。新しい感覚でした。
- ・あたり前の幸せを日々見つけられたら、素敵な生活習慣になりそう。コロナと向き合う生活に付け足したいくらい。
- ・丁寧な語りの中にキラッと心に残る言葉の数々があり、良いお話だったと思います。
- ・ZOOMは良かった。まさにコロナ禍の対応。

6 全体を振り返っての満足度

「全体を通じての感想等、何かあればお聞かせください。」

- ・会場設備がよかった。記念講演はやはり本物の声が聞きたかった。講演が終わったあとのトークの方がおもしろかった。
- ・今回はこのような状態での開催であったので、緊急性から最終的に判断されたと思うが、今後は最初

からこうした形態で進めても良いのではないか。

- ・地域の発展に頑張りたい。
- ・色々と工夫されての開催ご苦労さまでした。
- ・コロナ対策としっかりされていて安心して参加させていただきました。
- ・フロア周辺の市町村発表はバラエティ豊かでよかった。
- ・座席が後方（後ろから3列目）だったため、事例発表のプレゼンで小さな字が見えなかったのが残念だった。
- ・会場の照明が暗いため、資料も読めず、メモも取れない。こんな会場は初めてです。これは、参加者に全く配慮していないと思います。
- ・コロナ禍の中での会場設営お疲れさまでした。広々とした会場で良かったです。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の中、中止にならず縮小であっても成果があったと思います。事例を取り入れるヒントを得られました。（社会教育委員の自主活動につなげるアイデア）
- ・会場内が少し暗くてメモを取りづらかったです。
- ・改めて、今こそ私たちの出番で、時にはお茶碗のごはん、おにぎり、おかゆとなって、人づくりは、まちづくり、地元の元気のためにも人々の居場所が必要とされる場所への関わりを求めたいです。
- ・新潟県内のみでの参加で良かった。席も決まっていた良かったです。
- ・一人一脚の机、社会的距離2m以上を取った大会のスタイルが安心感を持たせてくれました。
- ・コロナの感染防止の中で開催した大会であり、事務局でスタッフの苦勞が多くあったと思いますが、無事開催できてよかった。
- ・全国大会（県大会のみ参加）が開催でき本当によかったです。県内の社会教育委員で参加できなかった方に、一人でも多く大会の様子を「ラ・ラ・ネット」で見学していただけたらと思います。
- ・コロナ禍にあっての開催、残念な部分はたくさんあるでしょうが、開催できたこと、ご尽力ほんとうにありがとうございました。
- ・やってもよし、やらなくてもよし、でも自分で責任を取る。社会教育が好きになりました。
- ・予算減が続く中、どうやって事業活動への応援を継続していくか悩んでいたところ周囲を巻き込むという視点で解決の糸口が見つかりました。
- ・感染対策で規模縮小での開催でしたが、学ぶことの多い大会だったと思います。運営にあたった皆さま、ありがとうございました。
- ・コロナ禍で大きな大会を開催され、感染対策も充分していただき、ありがとうございました。グループワークができず、少し残念な思いを持たれている方も多いと思いますが、このような学びに参加でき感謝します

／7 その他

「次年度は、例年の研究大会に戻ります。研究大会開催にあたり、社会教育委員として何かアイデアがあればお聞かせください。」

- ・来年はコロナが少し収まると思うが、（完全に収束するとは思わないので）密にならぬよう運営をお願いします。
- ・型にはまった運営ではなく、その地域（開催県）の特色を生かした（企画から運営まで）大会になれ

ば良いと思う。

- ・運営委員の方、コロナの為会場整備にご苦勞をおかけしましたが、ありがとうございます。参加させていただき、私自身顧みるチャンスになりました。
- ・コロナ禍の影響が今後どうなるかは分からないが、今回のような方式が広まっていくことが考えられるので、開催の労力が軽減できる方向で検討したらどうでしょうか。
- ・今回、指定席でしかも市町村ごとにまとまったので、直接お話を聞きたい市町村の人がどこにいるかよくわかったので良かった。今後も指定席にしてほしい。
- ・社会教育の研究大会に参加するのは初めてで、良い経験になりました。可能なら来年も県か、関東甲信越静の大会に参加したいです。
- ・垂れ幕や壇上の名前札の文字が小さく見えにくかった。(字体や太さを工夫したらよかった)
- ・実際に活動、活躍しているポテンシャルの高い方の話を聞けたら幸いです。
- ・社会教育委員の経験年数によって考え方が違ってくると思う。社会教育と社会へ、社会から学ぶ生涯教育と生涯学習、言葉の捉え方で違ってくる。行政職員との捉え方の違いと理想と予算付け、活動を通した捉え方、環境づくりをどう捉えるか。
- ・少子高齢化の時代、教育全体が変わりを必要としているのでは。
- ・できることならば、様々な地域の方との情報交換ができるといいですね。
- ・市町村ごとに活動の課題が様々であるが、統一課題での取り組みの事例発表も良いのではないかと(地域事情があり難しいと思うが)。
- ・精力的に活動されているNPO等、外郭団体の方との交流の場(座談会、相談会)があればさらに勉強ができると思いますが難しいかと思えます。
- ・まだまだコロナ禍。こんな形でも良いのかも。いろいろな制約の中、かかわった皆さまお疲れさまでした。長岡の皆さま大変お疲れさまでした。
- ・社会教育委員としての職務の理解の大切さについて、アピール方を委員でもあるので理解することが重要。事業屋ではなく、コーディネーターなのだ。
- ・事例発表もよいが、テーマについて議論するディスカッションはどうか。(悩みの共有等)
- ・今できることをしっかりやるのが、次の社会教育へとつながると思います。小さいことをこつこつということでしょうか。

第62回全国社会教育研究大会新潟大会予算執行状況

R3. 2. 15現在

I 収入の部

No	内 訳	予 算	決 算	比較増減	附 記
1 補助金	全国社会教育委員連合	700,000	700,000	0	
	県社会教育委員連合	350,000	350,000	0	
	中社連研究集會費	70,000	70,000	0	
2 参加費	参加費 一人3,000円	450,000	564,000	114,000	
	還付金 一人3,000円×2人	0	▲ 6,000	▲ 6,000	事前欠席者2名
3 協賛金		1,674,995	1,688,897	13,902	
4 雑収入	他県冊子(大会冊子・報告書)販売希望 1冊 650円×57冊、県内大会冊子追加希望分1冊 350円×15冊、所得税額納分	0	64,762	64,762	他県冊子(大会冊子・報告書)販売希望 1冊650円×57冊、県内大会冊子追加希望 分1冊350円×15冊、所得税額納分(22,462 円)
5 繰越金		78,604	78,604	0	
合計		3,323,599	3,510,263	186,664	

II 支出の部

No	科 目	内 訳	予 算	決 算	比較増減	附 記	
1 報償費		記念講演謝金、旅費	220,000	278,000	295,788	17,788	司会者、事例発表者、助言者、ローディネーター 旅費・謝金へ 含 旅費 派遣なし 含 旅費
		司会者謝金	0				
		シンポジウム	33,000				
		看護師	10,000				
		司会者、事例発表者、助言者、ローディネーター 旅費、謝金	15,000				
2 旅費		シンポジウム(真柄氏)	6,000	341,000	199,469	△ 141,531	報償費に含む 報償費に含む 5月推進委員会、9月実行委員会 6月分科会、9月(山田・青柳)、9月分科会、 11月進行打合せ、11月次年度大会、2月会計 監査 長岡市社会教育委員 山田会長(前泊)、推進課(5名)、上越教育 事務所(2名)、下越教育事務所(2名)、県社 会教育委員(1名)
		分科会	32,000				
		実行委員会旅費	110,000				
		事前打ち合わせ旅費	0				
		全国大会関係会議等旅費	18,000				
		前日準備旅費	75,000				
		大会当日旅費	100,000				
3 食糧費		講師、シンポジスト、事例発表者昼食	10,000	20,000	10,552	▲ 9,448	シンポジウム(4名)、事例発表(6名) 接待用お茶、シンポジスト水
		その他食糧費(コーヒー、ペットボトル、茶菓等)	10,000				
4 需用費		消耗品(花、事務用品、看板印刷、封筒、当日 カバン、クリーニング代金、等)	100,000	100,000	163,101	63,101	花、事務用品、消毒関係、シンポジスト土 産、クリーニング、体温計、コピー、賞状、賞 状筒、社教情報No.84(361冊)等
5 印刷 製本費		大会冊子(含 送料)	485,000	705,000	886,470	181,470	
		大会報告書(含 送料)	180,000				
		テープ起こし	40,000				
6 役務費		通信運搬費	50,000	150,000	33,234	△ 116,766	振込手数料
		振込手数料	0				
		イベント保険	100,000				
7 使用料 及び 賃貸料		3月関プロ会議会場使用料(日本弘道会ビル)	13,000	13,000	0	▲ 13,000	
8 委託料		旅行者委託	745,950	1,245,950	1,085,758	▲ 160,192	
		股営業者委託	500,000				
9 予備費			470,649	470,649	200,000	▲ 270,649	全国社会教育委員連合への寄附
		合 計	3,323,599	2,884,372	▲ 439,227		

※網掛け部分は未執行があり、執行予定で算出

III 差引残高 3,510,263 - 2,884,372 = 625,891

※上記の差引残額 625,891円を積立金特別会計に繰り入れ、次期関東甲信越静社会教育研究大会新潟大会準備金等に充てる。

議事(1)

第52回関東甲信越静社会教育研究大会東京大会について

1 大会概要(案)

(1) 大会開催要項

別紙1「開催要項(案)」のとおり

(2) 基調講演・トークセッション

大会全体を通して、大会スローガンに沿って筋の通ったものになりたいと考えております。このため、講演は「基調講演」とします。東京大学の牧野篤先生にお話しいただきます。

また、この基調講演の後、牧野篤先生と東京都市町村社会教育委員連絡協議会(以下、「都市社連協」といいます。)の会員4名(うち1名はコーディネーター)でトークセッションを行い、基調講演の内容を掘り下げていきたいと考えております。なお、都市社連協会員からの人選については、ほぼ済んでおります。

(3) 分科会

当初、事例発表を行う分科会を2つ、ワークショップ等を行う分科会を3つ、という予定でしたが、事例発表を行う分科会を3つ、ワークショップ等を行う分科会を2つ、に変更いたしました。事例発表については、1分科会につき2事例の発表を予定しております。

また、ローテーション表上位の横浜、群馬、茨城、山梨に事例発表を行っていただく予定でしたが、1分科会につき他県1事例・東京都1事例とし、他県の事例については、横浜、群馬、茨城、山梨に応募いただいた事例から3つに選定することにいたしました。

2 連絡事項

(1) 開催要項発送について

7月下旬を予定しておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、変動する可能性がありますことを御承知おきください。

各都県市における必要部数を事前に調査いたします(別紙2「第52回関東甲信越静社会教育研究大会東京大会開催要項必要部数希望調査について(照会)」)。例年並みでお願いできればと思いますが、大幅な増がある場合には御相談ください。

(参考) 令和2年度第1回理事会 新潟大会資料より(斜体は埼玉大会時のもの)

全社教連	5	茨城県	200	栃木県	110
群馬県	120	埼玉県	350	千葉県	105
東京都生学審	50	神奈川県	170	新潟県	350
山梨県	350	長野県	600	静岡県	200
さいたま市	30	千葉市	5	横浜市	0
川崎市	2	相模原市	20	静岡市	20
浜松市	20	新潟市	20	(東京都市町村)	300

- (2) 取扱い業者
東武トップツアーズ株式会社 立川支店
 - (3) 弁当について
お茶付き1,000円(消費税込み)程度の弁当を斡旋予定です。
 - (4) 参加費(3,500円)について
徴収範囲区分は、別紙3「参加費徴収について(案)」によります。
 - (5) 次年度開催県(山梨県)挨拶とPRについて
閉会行事の中で行います。PRがある場合、中身については連絡を取り合いながら進めたいと思います。
 - (6) 情報交換会について
府中の森芸術劇場にて会費6,000円(消費税込み)で予定しております。
 - (7) 駐車場について
本大会のための駐車場の御用意はございません。なるべく公共交通機関でお越しください。
 - (8) 新型コロナウイルス感染症による影響について
新型コロナウイルス感染症の状況により、開催規模・内容を縮小する場合がございます。
また、開催規模の縮小等に関わらず、オンライン配信を実施することを検討中です。
 - (9) チラシの配布について
各協議会等に100部ずつ、東京大会のチラシをお送りいたします。各都県政令指定都市において、お配りいただきますようお願いいたします。
なお、電子データをメールにて各協議会等にお送りいたしますので、併せて御活用いただき、東京大会により多くの方が御参加いただけるよう、御協力をお願いいたします。
- 3 今後の予定
- (1) 令和3年度関東甲信越静社会教育委員連絡協議会第1回理事会
令和3年5月中旬～下旬を予定 午後2時～4時
日本弘道会ビルにて
 - (2) 令和3年度関東甲信越静社会教育委員連絡協議会第2回理事会
令和4年3月上旬～中旬を予定 午後2時～4時
日本弘道会ビルにて

令和3年度
第52回関東甲信越静社会教育研究大会東京大会
開催要項(案)

1 大会スローガン

明日に向け 学びの輪を広げよう！！
～地域の魅力 グローバル社会で再発見～

2 開催趣旨

私たちは、今、人生100年時代に向け、未来志向の社会教育を考えていかなければなりません。

社会教育は、人・つながり・地域をはぐくみ、よりよい社会を形成することが出来るものだからです。

大会スローガン「明日に向け 学びの輪を広げよう！！」は、人生100年時代のこれからの未来を表現し、社会教育＝学びが広がっていくことをイメージし、人や地域がつながっていくことを目指します。

これまで、それぞれの地域では、豊富な人材と魅力あふれる多くのコミュニティにより様々な取組みが行われてきました。しかしながら、超高齢社会が進み、コミュニティの弱体化が叫ばれるようになり、最近では、新型コロナウイルス感染症がそれに追い打ちをかける事態となっています。そして、社会教育が得意とする、顔と顔を突き合わせてのコミュニケーションがとりづらくなり、コミュニティの先細りへの不安が地域に広がってきています。

そのような中、インターネットを活用した新しいコミュニケーションの取り方が広がりを見せており、新しい地域のつながり、社会教育の方法を模索しなければなりません。人々によってはぐくまれた地域の魅力を再発見する必要があります。東京大会が、地域の活性化に向けた新しい社会教育活動のきっかけとなるような大会になれば幸いです。

3 主催

一般社団法人全国社会教育委員連合、関東甲信越静社会教育委員連絡協議会、
東京都市町村社会教育委員連絡協議会
令和3年度関東甲信越静社会教育研究大会東京大会実行委員会

4 期日

令和3年11月11日(木)～12日(金)

5 会場

【全体会】府中の森芸術劇場（東京都府中市浅間町1-2 TEL：042-335-6211）
京王線東府中駅北口下車徒歩7分
[新宿駅から約25分、京王八王子駅から約20分]

【分科会】府中の森芸術劇場（同上）
ルミエール府中（東京都府中市府中町2-24 TEL：042-361-4111）
京王線府中駅北口下車徒歩6分
[新宿駅から約25分、京王八王子駅から約20分]

※各会場への大会内容に関するお問い合わせは御遠慮ください。

6 参加対象

関東甲信越静の社会教育委員および社会教育・生涯学習・地域活動に関心のある方
(約700名)

7 参加費

一人3,500円(参加資料代として)

8 大会日程

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
1日目 11月11日 (木)				受付 11:30~ 12:30	ア ト ラ ク シ ョ ン	開 会 行 事	基 調 講 演 ・ ト ー ク セ ッ シ ョ ン 13:30~16:15 (途中休憩15分)	閉 会 行 事	分 科 会 打 合 せ (関係者)	情 報 交 換 会 17:30~19:30	
2日目 11月12日 (金)		受 付	分 科 会 9:30~12:00								

9 大会内容

【全体会】11月11日(木) (受付 11:30~12:30)

○アトラクション (12:30~12:45)

- ・元気一番!ふちゅう体操(参加型アトラクション)

○開会行事 (13:00~13:25)

- ・開会の言葉
- ・主催者挨拶
- ・来賓祝辞
- ・歓迎の言葉
- ・来賓紹介

○基調講演・トークセッション (13:30~16:15)

- ・基調講演講師……………東京大学 教授 牧野 篤 氏
- ・トークセッション登壇者…東京大学 教授 牧野 篤 氏 他4名(コーディネーター含む)

○閉会行事 (16:20~16:35)

- ・次年度開催地PR(山梨県)
- ・主催者挨拶
- ・閉会の言葉

※情報交換会 (17:30~19:30)

会場:府中の森芸術劇場(東京都府中市浅間町1-2 TEL:042-335-6211)

【分科会】11月12日（金）（受付 9:00～ 9:30）

	テーマ
第1分科会 （ワークショップ）	人口減少地域を支える社会教育
第2分科会 （事例発表）	伝統文化を未来へ （風習・お祭り×社会教育）
第3分科会 （事例発表）	シビックプライドで活性化する地域コミュニティ ～住民の役割と行政の関わり～
第4分科会 （事例発表）	ICT普及時代における地域づくり
第5分科会 （グループワーク）	新しい生活様式における社会教育の実践



2都市社連協発第73号
令和3年2月12日

関東甲信越静各都県社会教育委員等連絡協議会会長 様
関東甲信越静各政令指定都市社会教育委員会会長 様

令和3年度関東甲信越静社会教育研究大会東京大会実行委員会
実行委員長 宮野 良一

第52回関東甲信越静社会教育研究大会東京大会開催要項必要部数希望調査に
ついて（照会）

時下、益々御清祥のこととお慶び申し上げます。

標記大会に向けて、日頃より御協力をいただき、ありがとうございます。

当実行委員会では、現在、大会開催要項の作成を進めております。つきましては、貴事務局へ開催要項を送付させていただくにあたり、必要部数を把握させていただきたく、下記のとおり御報告くださいますようお願いいたします。

なお、本文書は、メールのみでの施行といたしますので、御承知おきください。

記

- 1 提出書類 第52回関東甲信越静社会教育研究大会東京大会開催要項配布に係る必要部数希望調査用紙
- 2 提出期限 令和3年3月26日（金）
- 3 提出先 令和3年度関東甲信越静社会教育研究大会東京大会実行委員会事務局
- 4 提出方法 電子メールに添付して送信ください。
電子メールアドレス：div7050@city.ome.lg.jp
- 5 その他 (1) 提出いただいた後、変更がございましたら、事務局まで御連絡ください。
(2) 御不明な点等がございましたら、事務局までお問い合わせください。

令和3年度関東甲信越静社会教育研究大会東京大会実行委員会事務局
青梅市教育委員会教育部社会教育課 担当：土屋・田畑
メール div7050@city.ome.lg.jp
電話 0428-22-1111（内線2381） FAX 0428-22-9835

(別紙)

第52回関東甲信越静社会教育研究大会東京大会
開催要項配布に係る必要部数希望調査用紙

都縣市名		
担当者氏名		
必要希望部数		部
備考	(特記事項等がございましたら、御記入ください。)	

メールに添付して、3月26日(金)までに送信してください。

送信先 div7050@city.ome.lg.jp

よろしくお願ひいたします。

令和3年度関東甲信越静社会教育研究大会東京大会実行委員会事務局

青梅市教育委員会教育部社会教育課 担当：土屋・田畑

メール div7050@city.ome.lg.jp

電話 0428-22-1111 (内線2381)

FAX 0428-22-9835

**第53回関東甲信越静社会教育研究大会山梨大会
(兼) 令和4年度山梨県社会教育研究大会
開催要項 (案)**

1 大会スローガン

2 研究主題

3 開催趣旨

R3.3 県理事会で決定予定



山梨県PRキャラクター
武田菱丸

4 期 日 令和4年11月10日(木)～11日(金)

5 会 場

【1日目(全体会)】 甲府総合市民会館(山の都アリーナ)(予定)

〒400-0033 山梨県甲府市青沼3-5-44

【2日目(分科会)】 山梨県立図書館、県防災新館等、甲府駅周辺5会場(予定)

6 参加費 3,500円(参加資料代)

7 日 程(予定)

<1日目>(受付11:00～12:00)

- 1) 12:00～12:25(25分) 歓迎セレモニー
- 2) 12:40～13:05(25分) 開会行事(主催者挨拶、来賓祝辞)
- 3) 13:15～14:45(90分) 基調講演
- 4) 15:00～16:30(90分) シンポジウム
- 5) 16:40～17:55(75分) 閉会行事(次期開催県挨拶、主催者挨拶)
- 6) 17:10～18:00(50分) 分科会打合せ
- 7) 18:30～20:30 情報交換会

<2日目>

(ア) 9:30～12:00 分科会(5分科会を予定) 9:10～受付

議事（3）

**関東甲信越静社会教育研究大会
開催都県及び分科会事例発表都県市ローテーションについて**

1 関東甲信越静社会教育研究大会の開催都県について（平成27年度確認）

- （1）開催年度の3年前の3月までに関プロ理事会で正式決定する。
- （2）開催都県の順番は、関プロ理事会で定めた「基本ローテーション（ハ）」により決定するが、全国大会（関プロ大会と同時開催）の開催間隔（前回開催からの経過年数）を考慮し、一部開催順序を入れ替える。
- （3）全国大会の開催都県（ロ）は、平成27年度確認により、千葉県を起点とした基本ローテーション（イ）を定め、関プロ大会の開催間隔を踏まえ、開催順序を適宜入れ替え決定する。

2 分科会事例発表都県市ローテーションについて（平成22～30年度 随時確認）

- （1）事例発表と県の順番は、大会開催順を基本とする。
ただし、前年に大会を開催した都県は、原則として事例発表から除く。
- （2）政令指定都市の順番は、（上記）を原則とする。
- （3）原則として、政令指定都市は事例発表の1枠を担当し、残りの数が都県の担当となる。
- （4）都県順番
①埼玉県 ②長野県 ③東京都 ④茨城県 ⑤栃木県 ⑥山梨県 ⑦神奈川県
⑧群馬県 ⑨千葉県 ⑩新潟県 ⑪静岡県 ⑫政令指定都市
- （5）政令指定都市内順番
①千葉市 ②横浜市 ③さいたま市 ④川崎市 ⑤静岡市 ⑥新潟市 ⑦浜松市
⑧相模原市

3 平成29年度第2回理事会までに出された意見

分科会の発表をローテーションとしているが、各都県の自発的な応募（公募）を望む。
一方で、ローテーションを廃止してしまうと、公募が一定数集まらない場合、大会実施が困難になる。

4 平成30年度第1回理事会での確認事項

- （1）公募かローテーションで行くかは、開催都県市の分科会構想に委ねる。その方向は、開催前年度の第1回理事会までに提案する。
- （2）ローテーションの場合は、別紙事例発表候補都県市ローテーション表（案）による。また、公募の場合も分科会的事例発表数に足りない場合は、ローテーション表により、依頼する。
- （3）公募の場合もローテーション表の場合も、ローテーション表に反映させる。

関東甲信越静社会教育委員連絡協議会

全国大会・関ブロ大会の開催ローテーション(平成28年3月18日確認)

年度	全国大会		関ブロ大会			理事会 提案時期	開催最終 確認時期	備考
	基本(イ)	決定(ロ)	基本(ハ)	開催都県	前回からの			
28	千葉県	千葉県	1	千葉県	千葉県	11	-	H25.3
29			2	新潟県	静岡県	10	-	H26.3
30			3	静岡県	長野県	10	-	H27.3
元			4	埼玉県	埼玉県	10	H28.6	H28.3
2	新潟県	新潟県	5	長野県	新潟県	14	H28.6	H29.3
3			6	東京都	東京都	11	H28.6	H30.3
4			7	茨城県	山梨県	10	H28.6	H31.3
5			8	栃木県	栃木県	10	H28.6	R2.3
6	静岡県	茨城県	9	山梨県	茨城県	13	H28.6	R3.3
7			10	神奈川県	神奈川県	11	R1.5	R4.3
8			11	群馬県	群馬県	11	R1.5	R5.3
9			1	千葉県	千葉県	11	R1.5	R6.3
10	埼玉県	静岡県	2	新潟県	静岡県	11	R1.5	R7.3
11			3	静岡県	長野県	11	R5.5	R8.3
12			4	埼玉県	新潟県	10	R5.5	R9.3
13			5	長野県	東京都	10	R5.5	R10.3
14	茨城県	埼玉県	6	東京都	埼玉県	13	R5.5	R11.3
15			7	茨城県	山梨県	11		
16			8	栃木県	茨城県	10		
17			9	山梨県	神奈川県	10		
18	栃木県	栃木県	10	神奈川県	栃木県	13		
19			11	群馬県	群馬県	11		
20			1	千葉県	千葉県	11		
21			2	新潟県	静岡県	11		
22	群馬県	長野県	3	静岡県	長野県	11		
23			4	埼玉県	新潟県	11		
24			5	長野県	東京都	11		
25			6	東京都	埼玉県	11		
26	長野県	山梨県	7	茨城県	山梨県	11		
27			8	栃木県	茨城県	11		
28			9	山梨県	神奈川県	11		
29			10	神奈川県	栃木県	11		
30	山梨県	群馬県	11	群馬県	群馬県	11		
31			1	千葉県	千葉県	11		
32			2	新潟県	静岡県	11		
33			3	静岡県	長野県	11		
34	神奈川県	東京都	4	埼玉県	東京都	10		
35			5	長野県	新潟県	12		
36			6	東京都	埼玉県	11		
37			7	茨城県	山梨県	11		
38	東京都	神奈川県	8	栃木県	神奈川県	10		
39			9	山梨県	茨城県	12		
40			10	神奈川県	栃木県	11		
41			11	群馬県	群馬県	11		

【関東甲信越静社会教育研究大会開催都県の決定及び確認方法について】

1. 開催年度の3年前の3月までに関ブロ理事会で正式決定する。
2. 開催都県の順番は、関東甲信越静地区で定めた「基本ローテーション(ハ)」により決定するが、全国大会(関ブロ大会と同時開催)の開催間隔を考慮し、一部開催順序を入れ替える。
3. 全国大会の開催都県(ロ)は、平成27年度確認により、千葉県を起点とした基本ローテーション(イ)を定め、関ブロ大会の開催間隔を踏まえ、開催順序を適宜入れ替え決定する。

関東甲信越静社会教育研究大会 分科会事例発表候補都県市口ローテーション(案)

(1) 事例発表と県の順番は、大会開催順を基本とする。ただし、前年に大会を開催した都県は、原則として事例発表から除く。(平成22年度大会より)

(2) 政令指定都市の順番は、(上記)を原則とする。(平成22年度大会より)

(3) 原則として、政令指定都市は事例発表の1枠を担当し、残りの数が都県の租当となる。

(4) 都県順番

①埼玉県 ②長野県 ③東京都 ④茨城県 ⑤栃木県 ⑥山梨県 ⑦神奈川県 ⑧群馬県 ⑨千葉県 ⑩新潟県 ⑪静岡県 ⑫政令指定都市

(5) 政令指定都市内順番

①千葉市 ②横浜市 ③さいたま市 ④川崎市 ⑤静岡市 ⑥新潟市 ⑦浜松市 ⑧相模原市

回数	年度	開催都県	基本	全国	分科会数	公募	埼玉	長野	東京	茨城	栃木	山梨	神奈川	群馬	千葉	新潟	静岡	政令市	備考
45	26	神奈川			5+2(特別)		⑦	⑧	⑨	④	／	⑩	○	⑤	⑥	—	③	①静岡 ②新潟	
46	27	群馬			5		7	8	9	5	④	10	○	○	6	③	②	①浜松	
47	28	千葉		○	5		○	○	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—	
48	29	静岡 (新潟)			5		8	9	③	②	10	④	5	6	7	／	○	①相模原	
49	30	長野 (静岡)			5		○	○	8	9	②	10	3	4	⑤	6	／	①千葉 ○新潟	
50	元	埼玉			2+3(発表なし)		○	／	6	7	9	8	②	3	⑩	4	5	1横浜	
51	2	新潟 (長野)		○	5		○	⑨	4	5	7	6	10	2	8	○	③	1横浜	
52	3	東京					8	10	／	3	5	4	7	2	6	／	9	1横浜	
53	4	山梨 (茨城)																	

○:分科会事例発表都県市

／:開催都県

○:前年度開催都県

数字:発表候補都県市順番

社会教育研究大会の大会スローガン、研究主題一覧

年	大会スローガン・研究主題	分科会内訳
H22 東京	"地域教育"をリードする 社会教育活動の活性化を目指して	①乳幼児期からの家庭教育委支援 ②地域が支える子ども・学校 ③地域課題に向き合う「学び」 ④地域の教育力向上を目指した社会教育施設の役割 ⑤「やりとりの復活」が紡ぎ出す新しい公共空間
H23 茨城	新しい時代の生涯学習・社会教育・公民館活動を 推進するための公民館・社会教育委員の新しい姿 を探り、創り、そしてさあ動き出そう	分科会なし
H24 山梨	つどえ 富士の国やまなしへ 語ろう 日本の今 これから 地域の絆を深め 活力を生む新しい社会教育を創る	①家庭教育支援 ②社会教育と学校教育の協働 ③地域の教育力向上 ④社会教育委員の役割 ⑤社会教育施設のあり方
H25 栃木	学びを通じて、地域住民が「絆」を強め、 自立した地域社会を作る社会教育の在り方	①地域の絆を育むネットワークづくり ②青少年の健やかな成長を育む環境づくり ③住民の社会参画を促進する学習機会の充実 ④社会の要請に関する学習機会の充実 ⑤未来を支える人づくり
H26 神奈川	社会教育がつなぐ ひと、地域 そして未来 今、社会教育にできること、私たちにできること	①地域づくりと社会教育の役割 ②子どもの豊かな感性の育成 ③家庭教育支援 ④社会教育施設のあり方 ⑤社会教育行政への社会教育委員の関わり ⑥公募委員の意義と役割 ⑦社会教育委員の経験の活かし方
H27 群馬	たくましく生きる力をはぐくむ社会教育のあり方 ～温もりのある地域社会をめざして～	①家庭教育支援 ②学校と地域との連携 ③地域づくり ④青少年教育 ⑤今日的課題への取組
H28 千葉	千葉で語り合おう！ 未来を築く 人づくり・まちづくり 学びあい、支えあい、高めあう社会教育の創造	①学校教育支援の推進 ②家庭教育支援の充実 ③地域の教育力の向上 ④社会教育委員の役割 ⑤災害に強い地域づくり
H29 静岡	社会教育で広げよう 人の和 地域の輪 ～未来へつながる地域をめざして～	①学校家庭地域連携のあり方 ②家庭教育支援のあり方 ③社会教育委員のあり方 ④地域社会のあり方 ⑤社会教育施設のあり方
H30 長野	信州で、出会い・ふれあい・学びあい ～皆で語ろう 地域づくりは人づくり～ 連携・協働による未来志向の 社会教育のあり方を考える ～持続可能な地域コミュニティを目指して～	①学校・家庭・地域の連携協働と社会のあり方 ②公民館活動と社会教育のあり方 ③福祉教育と社会教育のあり方 ④社会教育委員の役割と社会教育のあり方 ⑤未来の地域づくりと社会教育のあり方
R1 埼玉	今、時代が変わる 人が変わるそして社会が変わる！ ～さあ動き出せ "学び"の先へ～ あなたはどうか生きる？ 人生100年時代！ ～主役はあなた 明るく心豊かな社会の実現～	①社会教育の担い手としてのあり方 ②人生100年時代における社会教育の実践 ③市民と行政のパートナーシップ ④人材発掘、養成、フォローアップのあり方 ⑤社会教育のネットワークづくり
R2 新潟	未来につなぐ「米百俵」 ～フェニックスの地で はじまるこれからの社会教育～ 新しい社会教育をデザインする ～つなぎ はぐ くみ 響きあう 生涯学習社会の実現～	①学校との関わり ②家庭との関わり ③地域との関わり ④社会教育施設等との関わり ⑤人と人とのつながり

上段:スローガン 下段:研究主題



議事（４）

令和３年度関東甲信越静社会教育委員連絡協議会
正副会長について

関東甲信越静社会教育委員連絡協議会規約第５条第１号及び第２号により、
令和３年度正副会長について以下のとおり提案します。

会 長 宮野 良一 （東京都市町村社会教育委員連絡協議会 会長）

副会長 山田 智之 （新潟県社会教育委員連絡協議会 会長）

副会長 塩島 明美 （山梨県社会教育委員連絡協議会 会長）

任期は、令和３年４月１日から令和４年３月３１日までとします。

なお、任期中、当該役員を選出に至った団体の所属関係に異動が生じた場合は、後任の者をもって充て、その任期は前任者の残任期間とします。

以上

[連絡・その他(1)]

その他 千葉県からの意見

〈大会の開催方式について〉

新型コロナ下における大会開催については、変更等も含め開催県の負担が大変過大であり、今後に向け何らかの改善策等の検討が必要と考えます。

(例)：管内の都県による持ち回り開催を一時的に停止し、事務局を一本化し会議等を含めた業務運営を行う。

上記の内容について、千葉県社会教育委員連絡協議会から提案があり、事務局（新潟県社会教育委員連絡協議会）で議事とするかどうか検討しました。

仮に、千葉県から示された(例)のような見直しを行う場合、これまで確認されてきた開催都県ローテーションに影響するものと考えられ、議事とするためには、より具体的な形で提案していただく必要があると考えました。

千葉県社会教育委員連絡協議会からは、そこまで具体的な提案はないということでしたので、今回は議事とせず、意見として加盟都県市にお伝えをすることとしました。各都県市におかれましては、これに関して何か御意見等がございましたら、第2回理事会検討結果シートの「その他」の項目に御記載ください。

[連絡・その他(2)]

令和3年度当初スケジュールについて

① 全国社会教育委員連合第1回理事会・総会

例年：5月開催

② 関東甲信越静社会教育委員連絡協議会第1回理事会

例年：全国社会教育委員連合理事会・総会のおよそ1週間後を目途に開催

※令和3年度の全国社会教育委員連合の理事会・総会の方向性が決定され次第、会場の空き状況等を見ながら日程を調整します。令和2年度内に決定された場合は新潟県、新年度に入り決定をされた場合は東京都市町村が日程を決定し、連絡をすることになります。

